

小笠原 紗也佳さん

Sayaka Ogasawara



[シリーズ] 愛媛大学・卒業生を訪ねて



それぞれが仕事に真摯に取り組みながら、慈しみ育ててくださったご両親の生き方を尊敬していた小笠原さん。特に出産後職場復帰をして、定年まで勤め上げたお母様の姿は、一生を捧げられる仕事に就くことの素晴らしさを教えてくれました。そこで愛媛大学工学部で土質に関わる地盤改良の工法の学習・研究に取り組み、現在はその経験を活かしながら仕事に邁進しています。仕事人として、一児の母として、日々奮闘する彼女の思いをうかがいました。

仕事を通して社会との関わりをもち子育てとの両立を目指したい

幼い頃より、建築業を自営している父が図面を引いてもものづくりをしている姿を目にしていました。その影響で、私も広い意味でのものづくりをしたい…と愛媛大学工学部に進学し、土質について学びました。一方、母は公務員として定年まで勤め上げたキャリアウーマン。私も母のように、一生の仕事をもちたいと考え、公務員を目指しました。大学の恩師が「これからの日本が諸外国に負けないように発展するためには、女性が社会で活躍することが大切だ」と話してくださったことも大きな後押しになったと感じています。

夢かなって、国土交通省四国地方整備局に入局し、2013年6月には大学時代の先輩と結婚。2年後に長女を授かりました。約1年間の産休と育児を経て、2016年4月から職場へと復帰しています。実は職場復帰する前、まだ幼い娘を保育園に預けることに身を切られるような辛さを感じました。正直に言うと、職場復帰することに躊躇しましたが、私の成長を支えてくれた職場の上司や先輩、同僚たちの存在、大学時代の学びを活か

せるやりがいのある仕事のことを考え、「やはり仕事を続けたい」と決意。娘に関われる時間は限られていますが、それだけに大切に子育てをしようと思えるようになりました。また、保育園でたくさんの人と関わり、社会性を身につけて日々成長している娘の姿を、とても嬉しく、頼もしく思っています。決して何もかもパーフェクトにできているわけではなく、時には家事が手抜きになってしまふことも(笑)。でも、家族や同僚や周囲の支えで、日々充実感を得ています。

今、私が所属している松山河川国道事務所は、重信川と石手川(二部)、石手川ダム、管轄内の国道の維持管理を担っています。私自身は道路の交通安全に関する業務、管内の道の駅に関する仕事を担当。安全に道路を利用していたくための道路整備に取り組んでいます。歩道の新設などの際には、その場所の地盤調査が必要不可欠ですが、大学での学びが役立っていることを実感します。

毎日が慌ただしく、余暇を楽しむ余裕はまったくありませんが、オンとオフのそれぞれに充実感があり、自分が必要とされる喜びがある今の生活に満足しています。

Profile

小笠原 紗也佳さん

1986年愛媛県松山市生まれ。愛媛県立松山東高等学校卒業後、愛媛大学工学部環境建設工学科に進学。2009年卒業後、国土交通省四国地方整備局に入局。香川河川国道事務所、中村河川国道事務所勤務し、現在は松山河川国道事務所にて勤務。



松山河川国道事務所の横尾和博所長との一コマ。「横尾所長をはじめ職場の皆さんの理解と協力により、職場復帰できています」と小笠原さん



仕事が終わると、すぐに保育園に娘さんを迎えに行きます。「私が母の生き方の影響を受けたように、娘に尊敬してもらえるような生き方をしたいですね」